

## ト 出荷後の池管理

5～6月に放養した種エビも3月には出荷され、年間のしめくりとなるが、出荷後の3～5月は次期放養に備え、池の掃除、網の補修、機械器具の整備期間である。特に池の掃除は年1回は池干しをし、砂立と称して、エビの寝床となる砂をとこところによせ集め、曝射をして砂の還元を図ったり、新しい砂と取り替えたりする作業がなされている。池干しは砂の還元を図る他に外適となるカニ、ウナギ、ボラ等の雑魚を取り除くためでもある。

## チ 考 察

以上、熊本県での車エビ養殖の研修報告を取りまとめたが、沖縄における車エビ養殖の成否は安い価格で継続して供給できるエサの確保いかにかかっているかと思う。

各養殖場でエサ代について聞いたところ、アサリのムキ身をKg当り50～50円で購入し、1Kg生産するに与えたエサ代は1,700～2,000円とのこと。エビの売上平均単価4,000円のうち50%はエサ代との話である。もし、Kg当り100円のエサならば、エサ代だけでとんとんになってしまうそうである。

熊本県における車エビ養殖のように、生エサ給餌の方法では、エサの入手面で大きなハンディーを持っていることを痛感した。ただ、今後、ウナギ養殖等のように、配合餌料による飼育が確立されつつあるので、エサ入手のハンディーも解消されるものと期待される。そうなると、亜熱帯、海洋性気候の恵まれた自然的条件をもつてすれば、周年給餌が可能である。他府県にない大きなメリットを持っているので、本県のウナギ養殖の伸展ぶりが如実に示すように、車エビ養殖についても発展が期待される。

おわりに、今回の視察にあたり、御高配をいただきました熊本県水産課に厚くお礼申し上げます。